

## 『飯島宗一先生追悼集』から

名大中央図書館 4 階に「飯島宗一第 8 代学長寄贈学術資料」の展示コーナーがある。ここには貴重な原爆関係資料などを選んで展示しており、よく利用している。コーナーには次のような説明が掲げられている。

「飯島宗一名誉教授は、大正 11 年長野県のお生まれで、昭和 21 年名古屋帝国大学医学部卒業後、同学部助教授、広島大学教授を経て、同大学学長を務められ、その後本学に戻られて医学部長などの要職を歴任されました。

その間ご専門の病理学の教育と研究に努められ、とくに原爆症の病理学的研究では多大な功績を残されました。

昭和 56 年 7 月本学第 8 代学長に就任され、2 期 6 年間学長として本学の運営と発展にご尽力されました。学長任期終了と同時に退官されるまで、34 年余の永きにわたり医学分野での教育と研究、大学の管理運営などに広くご活躍をされました。

退官後も、愛知芸術文化センター総長や科学技術交流財団理事長等を歴任され、平成 16 年 3 月に享年 81 歳でご逝去されました。-----」

写真上は『飯島宗一先生追悼集』である。先生の略歴や主要業績、数多くの人たちの「追悼」の言葉などが掲載されている。飯島先生のじつに幅広いご活躍が、「追悼集」からもわかる。とりわけ原爆症の病理学的研究、学長などとしての「行政手腕」は特筆すべきものがある。現在の名大だけでなく、名古屋市立大学の「統合再編」などでも大きな役割を果たされた。

私にとって注目したいのが、先生が旧制松本高校を卒業されたことだ。長野県岡谷市で生まれ、旧制諏訪中学を卒業されたので当然かもしれないが、なにか親近感を感じる。旧制松高は、私が学んだ信州大学人文学部のキャンパスにあり、旧制松高の雰囲気を感じながら過ごした。旧制松高と言えば、北杜夫『どくとるマンボウ青春記』が有名だが、北さんは 1927 年生まれなので、飯島先生とは「接点」はないであろう。

写真下は「追悼集」掲載の松高近くの薄川堤防に座る飯島先生と級友土屋夏実先生（土屋文明先生のご子息）。この薄川には私も思い出がある。信大の頃に、この近くで下宿していたことがあり、青春の悩みを川辺で一人寂しく語ったことがある。「ああ青春の歓喜より」と大声で歌いつつ、川辺で考えに耽ったことも忘れられない。飯島先生の「追悼集」から、わが青春の頃を思い起こした。



(2015 年 8 月 13 日)